



建物外観 左：南館，右：本館  
(撮影：株式会社川澄・小林研二写真事務所)

## 建築概要

建設地：東京都千代田区丸の内 1-8-2  
 建築主：株式会社鉄鋼ビルディング  
 設計：株式会社三菱地所設計  
 施工：大成・増岡組建設共同企業体  
 建築面積：5,529.56m<sup>2</sup> 延床面積 117,963.70m<sup>2</sup>  
 階数：地上 26 階、地下 3 階 高さ：131.77m  
 構造種別：地上 鉄骨造、  
 地下 鉄骨鉄筋コンクリート造

## 選評

戦後間もなく、当時としては大規模かつ高層の建築物として竣工した第一鉄鋼ビル（1951 年竣工）と第二鉄鋼ビル（1954 年竣工）は八重洲側に位置し、東京駅を挟んで同時期に建てられた丸の内側の東京ビルディングと共に、戦後日本の経済発展にその役割を果たしてきた。

この第一・第二鉄鋼ビルの建て替えとして、新たに「鉄鋼ビルディング」が計画された。南北約 200m、東西約 30～40m という細長い敷地形状の有効利用のため、地上低層部を一体構造としている。その上に用途・ボリュームとも異なる 2 棟が免震層を介して配置され、それぞれがその用途にあった風格を備えた姿で完成した。

事務所機能を主力とした本館（26 階建・約 132 m）と中長期滞在型サービスアパート及び羽田・成田空港からのリムジンバスの発着場等が設けられている南館（20 階建・約 99 m）の、ツインタワーの中間層免震建築物という難しい構造を高い技術力を駆使して実現している。

また、建築物の内部についても、アウトコラム構法を採用することで 16 m×116 m という大きな無柱の執務空間をつくり出している。柱と梁の接合部を偏心させることで実現したこのアウトコラム構法の構造的な弱点を補うためにも、免震構造が巧みに取り入れられている。

国際経済都市東京の玄関口にふさわしい施設となるものと高く評価できる。  
(安達 洋)

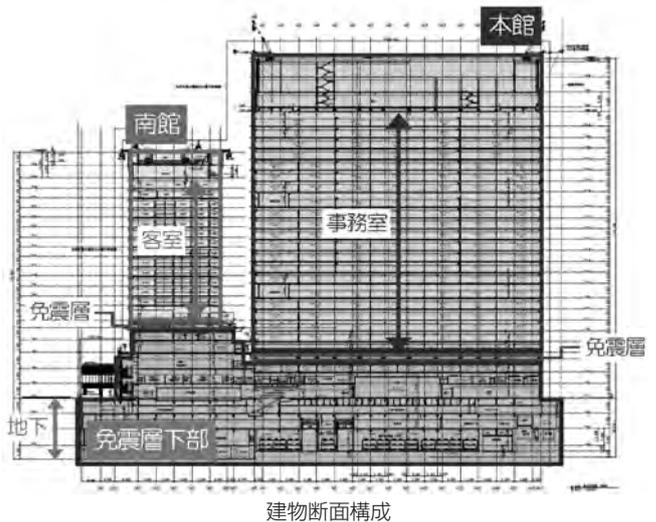
建築主：株式会社鉄鋼ビルディング 増岡祥文  
 設計者：株式会社三菱地所設計 溜 正俊、吉原 正、宮下正人  
 施工者：大成建設株式会社 坂本雅之

## 免震化した経緯及び企画設計等

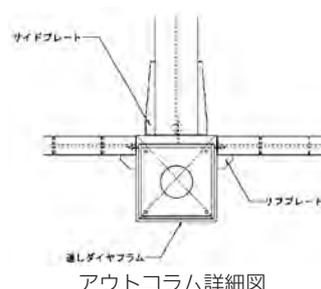
東京駅八重洲口に近接している本建物は、都市再生特別地区の指定を受け、事務所機能に加えて、中長期滞在型のサービスアパート、羽田空港からの直通リムジンバスの発着場等を併設し、国際経済都市東京の一役を担う建物として計画を行った。このような建物に対して、耐震性、居住性、事業継続性に高い性能を求められ免震構造を採用した。

## 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

一体とした地上低層部の上部に 2 棟の中間層免震構造を配置する計画を行った。免震層は、各棟の用途・機能に合わせて、異なる階に設けている。ツイン免震構造となるため、免震周期の検討を行い、共振の影響がないことを確認している。本館（事務所棟）は、強風の影響を受けやすい為、免震 ELV を強風時にも通常使用できるよう、ロック機構付オイルダンパーを採用し、強風時の免震層変位を抑える計画を行った。また、本館の外壁面は、アウトコラム形式（偏心柱梁接合部）とし、事務室内に柱型を出さない計画とした。



建物断面構成



アウトコラム詳細図



本館外壁周り内観